

無責任

43

光の物質

浮島

深い光

清水らくは

なけなしの音楽をだいて
少年はあぜ道をはしった

少年と少女が出会うたびに
世界は一つ終わっている

お互いを綺麗なものにしていく
ただ一つ確かに残るのは
つないだ手の絡まり方

やわらかい糠雨にむせる世界は
色彩をふかくした

レモン味の飴玉に
秘密を隠して語り合った

少年と少女はいなくなる
打ち捨てられた世界は
深い光の中で

彼岸花のいたいたしい赤みも
藪にひそむ八つ手の濃みどりも

曇り空が雨に変わる前の影で
色々な仮面を捨てて
陥ってしまった

ひとしく濡れた色合いだった

深い光

彼は自分がへびいちごの舌をもっているのを知っていた

名前すら必要のない
体すら煩わしい

夕暮れにたたずむべきスニーカーも持っていた

そんな刹那を見てしまったら
現実に戻りたいわけがない

まよなかに膨らんでいく
音楽のなかの少女は

雨が時間を注ぎ
晴れ間が未来を写し

彼の目のくもり空にあらわれ、たちさる

不安になった二人は
初めて手をつないだ

それははたして約束か
かなしみに湿るフラスコか

少女と少女は少しずつ
過去へと衣を脱ぎ捨てる

わからない

少年でも少女でもない
誰かと誰かへと登記される
思い出も上書きされて

またと目にする機会もないのに

無責任 四十三号

2015年9月1日発行

責任者 清水らくは

副責任者 浮島

配布先 <http://borderspoem.seesaa.net>

使用フォント たぬき油性マジック たぬき侍様